



2020・9・1

第 384 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 憲法破壊と対決 引き続き会の役割発揮を

### 安倍退任に世話人からの一言

浅倉 むつ子（早稲田大学名誉教授）  
安倍政権の 7 年 8 か月を思い起こすと、残された「負の遺産」の大きさに愕然とするばかりです。しかし、うかうかとしてはいられません。新型コロナの感染拡大のなか、世界中に暴力がはびこり、人々が相互に分断されている今こそ、私たちは、透明で、思いやりに満ちた、理性の政治を取り戻さなければならないからです。

### 池内 了（名古屋大学名誉教授）

安倍首相の辞任表明は、「責任を感じる」とか「手を携えて」と言いながら、国民の求めに誠実に応えようとしない安倍政治の行き詰まりの表れと言えるでしょう。集団的自衛権を容認し、専守防衛をかなぐり捨て、9 条改憲を実現する、その強権的な姿勢が後任者に受け継がれないよう、安倍政権に対したのと同じ厳しい目を向け続けましょう。

### 池田 香代子（ドイツ文学翻訳家）

### 「敵基地攻撃能力」の作業進む

安倍首相は辞任を表明しましたが、敵基地攻撃能力保有などは自民党総務会の決定となっています。そのため政府の作業も引き続きすすめられており、「9 月中に基本的な方向を示す見通し」といいます。

その内容は「具体的な攻撃対象は、ミサイル攻撃にかかわる基地や司令部施設などとし、北朝鮮などが通常使用するようになっている移動式ミサイル発射台（TEL）は当面除外する方向」といいます。「固定目標であれば、日本が持つ情報収集などで事前に場所の把握が可能で、巡航ミサイルでの攻撃も比較的容易」というのです（8 月 30 日「読売」）。

アメリカとの共同作戦が前提ですが、「専守防衛」とは異なることは明白です。

全国戦没者追悼式で、積極的平和主義という言葉が久しぶりに聞いた。平和学という平和主義の篡奪だ、と怒る人もいるが、主義がつくのとつかないのでは、意味が異なる。英語だと前者は positive peace、後者は proactive contribution to peace だ。

pro はあらかじめ、active は行動する、つまり敵基地攻撃の正当化だ。集団的自衛権容認から続く戦争できる国への地殻変動的变化を、最後に宣言したつもりなのだろうが、これを無効化するのが今後の私たちの課題だ。

### 伊藤 千尋 (ジャーナリスト)

安倍退陣の背景は一目瞭然です。モリカケ桜に黒川と続出する不祥事の弁明に疲れ、コロナには打つ手なし。9条改憲ももはや無理とあきらめた敗北宣言にほかなりません。

悪しき政権をついにダウンさせた市民力を、我々は誇っていい。今後は安倍の後継にとどめを刺し、9条を日本に根付かせ世界に広める運動を展開しましょう。

### 清水 雅彦 (日本体育大学教授・憲法学)

戦後最悪の安倍政権の下、一時は国会で改憲勢力が3分の2を超えていました。しかし、九条の会の活動や労組と市民と野党の共闘があったからこそ、改憲を拒むことができました。とはいえ、戦争法は制定され、改憲策動も続くでしょう。

であれば、共闘を発展させ、政権交代により戦争法の廃止と憲法理念の実現を目指していこうではありませんか。

### 山内 敏弘 (一橋大学名誉教授)

安倍首相は、退陣表明の記者会見で、国民的な世論の盛り上がりなしには改憲は進められないことを痛感したと述べた。全国各地の「九条の会」などによる広範な運動が安倍改憲を阻止することに大きく貢献し

たのである。ただ、自民政権が続く限りは9条改憲・壊憲の企ては続くであろう。それを最終的に阻止するには、「九条の会」の役割は引き続き大きいと思われる。

## 安倍辞任を予測した声も

### 【青森県／青森県九条の会】 青森県九

条の会は26日昼、青森市の新町商店街で「安倍改憲NO! 改憲発議に反対する全国緊急署名」に取り組みました。真夏日の中、参加者16人が大きな声で署名を呼びかけると、「安倍さん、辞めるのかしら」「戦争したがる政権はいやだな」と、自分の思いを伝え署名する市民の姿が多く見られました。

汗をにじませ買い物袋を抱えていた女性(60)は「長期政権はよくないね。独裁だし。安倍さんが早く辞めないと、日本ダメになっちゃうわよ」と語りました。

「安倍政権退陣を願っていた」女性(60代)は「森友・加計、桜とか、政治を壊した責任は重い。でも、解決しないで安倍が辞めるのは悔しい。安倍が罪を認めるまで声を上げたい」と思いをぶつけました。

署名した青山聡さん(37)は「戦争は絶対イヤ。自衛隊員少ないから徴兵するだろうし、とにかく戦争したがる権力者は信用しちゃいけない」と力を込めました。

## 定着した戦争法反対の19日行動

### 【奈良県広陵町／広陵9条の会】 8月

19日、毎月恒例の宣伝・署名行動を商業施設エコールマミの通路で朝9時45分からおこない、暑い中、10人が参加しました。

両側のフェンスに約4mの「若者を戦場に行かせない」の横断幕と模造紙1枚の「コ

「コロナの今こそ憲法生かせ！」のステッカー、奈良広陵9条の会の幟を2本立て、首から「アメリカの兵器爆買いやめコロナにまわせ！」「憲法変えるな政治を変えよう！」等のアピールボードをかけて、マイクを使っての訴えとビラ配布、「改憲発議に反対する全国緊急署名」を行いました。

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらないなか、みなさん、用心してビラの受け取りや署名は避けて通るのではないかと心配しましたが、予想に反してビラの受け取りもよく、準備した110枚がほぼなくなり、署名も最近では最も多く21筆が集まりました。ビラを受け取った人の5人に1人です。

安倍内閣のコロナ対応や危険な敵基地攻撃能力の動きなどを見て、この内閣ではとても国民の命は守ってもらえないと感じているのでは？と感じました。（下村）

**【愛知県岩倉市／岩倉9条の会ほか】** 19日、岩倉9条の会、年金者組合など7団体でつくる「戦争法廃止・憲法を守らせる岩倉市民の会」呼びかけでスタンディング宣伝行動。2015年から毎月続けています。

名鉄岩倉駅前では20人が、「戦争は最大の人権侵害！9条改憲を許すな」「武器よりコロナ対策に税金を」「子どもたちに核兵器のない未来を」など手作りのボードを掲げアピール。各団体の代表が「コロナ禍の中、改憲や敵基地攻撃を論議する時ではない」「コロナ対策、災害被災者支援など課題は山積。直ちに国会を開け」「改憲発議に反対する署名に協力を」と訴えました。

署名した女性は、「今は改憲など言っている時ではありません。安倍政権はコロナ対策を優先すべきです」と話しました。男

子学生（21）は、「オンライン授業なのに施設使用料は徴収される。バイトが減り、親の減収で学生生活は大変。国は学生支援策を考えてほしい」。幼児を連れた母親（31）は、「子どもの将来のためにも、憲法9条を大切に核も戦争もない世の中にした」と語りました。

## 終戦の日恒例となった映画会

**【奈良県橿原市／白樫9条の会】** 8月16日、白樫9条の会主催「終戦記念日映画会」を開催。昨年は「母べえ」を上映しました。

今回は酷暑のなかでの映画会となりますので納涼気分で見てください。高倉健さん主演「はるかなる山の呼び声」を上映しました。倍賞千恵子さんが一人で世話をしている牧場に健さんが突然現れ、夕張の雄大な牧場が舞台となります。

映画の終わりのシーンが観客の胸を打つすばらしい映画でした。

16人が参加され、カンパを13000円いただきました。参加された白樫9条の会員の皆様に感謝いたします。来年も良い映画会となるように企画したいと思います。（白樫9条の会世話人・岡崎邦夫）

## 終戦の日に町の戦禍語る街宣

**【和歌山県みなべ町／みなべ9条の会】** 75回目の終戦記念日の8月15日、みなべ「九条の会」は結成いらい続けてきた終戦記念日の街宣活動を実施しました。

午前中は旧南部川村、午後は旧南部町に街宣車を繰り出して訴えました。

「今日、8月15日は75回目の終戦記念日です。今、コロナウィルスが多くの国民

の生命や暮らしを脅かしています。一刻も早く収束させなければなりません。

先の戦争で犠牲となられた方はみなべ町に814名おられます。この方たちが亡くなられた無残な状況と家族の悲しみは変わることはありません。政府の行為によって戦争を二度と繰り返させないと日本は憲法9条で『戦争はしない』『戦力は持たない』としたので、戦後75年間戦死者はゼロです。

朝日新聞世論調査では、憲法9条を変える必要がないという人は65%です。しかし、安倍首相は何としても新しい憲法を施行させたい』とひたすら『改憲』の道を走っています。国民の願いから外れたこのような『改憲』を許すわけにはいきません』と訴えました。（会の平野憲一郎さんより「九条の会・わかやま」407）

## 戦争体験を語り継ぐ資料展

**【和歌山県日高町／日高町平和を願う9条の会】** 8月15日、「日高町平和を願う9条の会」は、「語り継ぐ戦争と平和資料展」を開催しました。150名の方が参加され、若い人も多く見かける展示会となりました。

特攻隊員だったことを30年間、誰にも話されたことがなかった花道柳太郎さんが会場に車椅子で来られ、見学の人たちと写真撮影ができました。

昨年6月「戦争の実体験を聞くつどい」を開催しましたが、話してもらえる人が極端に少なくなっており、12月に「戦争の悲惨さを次世代に語り継ごう」と「アピール」を発表しました。「今、戦争の悲惨さを次世代に伝えることは、待ったなしの状況に置かれています。私たちは体験者として『戦

争』を語り継ぎ、後世に残さなければなりません。戦争に関する遺品や手紙、写真などを『発掘』する作業を始めなければならないと考えています」と訴え、調査を進め展示会開催に至りました。戦争体験者は故人となっていたり、遺品が「処分」されていたりしましたが、「遺品」の探し出しには、多くのみなさんの協力があり沢山の「遺品」が集められました。

「戦死者への天皇からの賞状・勲章」「出征兵士や特攻隊員への寄せ書き」「千人針」「靖国神社からの合祀通知」等々が寄せられ、解説文をつけて展示しました。

34名の方から、「全国の隅々まで戦争に組み込まれ拒否できない戦前の状況がしっかり伝わってきた」「終戦記念日にふさわしい展示に感激した。これだけの多くの資料が集まっていることに驚き、今を逃がすと戦争を伝える生々しい資料が散ってしまうと思った」「実物が置かれていて、戦争は二度としてはだめだということが伝わった」等々の感想が寄せられました。

自民党は敵基地攻撃能力保有の提言を安倍首相に提出、安倍首相は、国家安全保障会議（NSC）での議論を開始すると表明しています。「戦争できる危険な国」に変えようとする動きが強まってきている今、「二度と戦争はダメ」の声を広げ、「展示会」に参加されたみなさん、若いみなさんとともに戦争の悲惨さを語り継ぐために、資料の収集を進め「資料館」ができるようにしたいと思います。

（会の事務局長・埋橋忠彦さんより「九条の会・わかやま」407）